

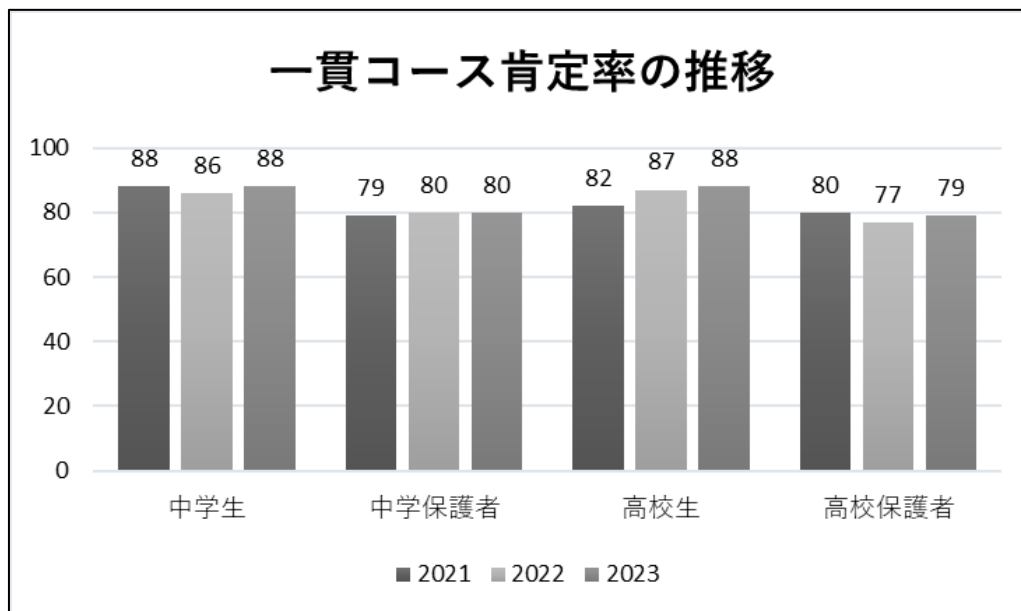
2023年度 学校評価アンケート 中高一貫コース 集計結果		2023年3月30日			
質問項目	・そう思う(4) ・ややそう思う(3) ・あまりそう思わない(2) ・そう思わない(1) 肯定率:(4)・(3)の和/(4)~(1)の和	肯定率			
		一貫高校生	中学生	一貫高校保護者	中学保護者
1	本校に入学してよかったと思っていますか。	94%	96%	91%	89%
2	本校生であることに自信と誇りを持っていますか。	87%	87%	92%	85%
3	自分の目標や目的意識を持って学校生活を送っていますか。	94%	83%	79%	72%
4	挨拶・服装・時間等、ルールやマナーを守れていますか。	96%	92%	91%	87%
5	授業内容を理解できていますか。	87%	79%	65%	67%
6	課題(宿題)等の量と質は適当ですか。	86%	77%	74%	79%
7	生徒の能力・個性に応じた適切な指導が行われていますか。	84%	85%	65%	73%
8	部活動は活発で、活動内容も充実していますか。	79%	76%	68%	44%
9	様々な活動を通して、達成感を得たり仲間意識などが高まったりしていますか。	92%	91%	80%	83%
10	キャリア教育(キャリア・フロンティア)の内容は充実していますか。	93%	94%	78%	85%
11	生徒一人ひとりの人権に配慮した適切な指導が行われていますか。	88%	89%	79%	80%
12	生徒面接やスクールカウンセリング等、心身の健康を維持するための支援が適切に行われていますか。	88%	86%	77%	84%
13	本校の教育環境(施設・設備面等)は、充実していますか。	93%	98%	91%	97%
14	本校において、良好な人間関係を築けていますか。	95%	95%	95%	88%
15	「考え流を学ぶ」に基づいた教育が、日々実践されていると思いますか。	87%	89%	77%	81%
16	教育目標や教育方針等について、教職員の共通理解・意思統一がされていますか。	74%	85%	71%	80%
17	各学年・部・教科等の情報共有と教職員の協働体制が確立し、組織としてうまく機能していますか。	84%	90%	64%	75%
18	自分の進路を実現するための体制(教育課程・少人数授業・習熟度別授業・補習体制等)が整っていますか。	87%	90%	77%	72%
19	本校の学力向上に向けた様々な取り組みが、進路実績等の成果につながっていますか。	87%	90%	73%	73%
20	教職員が学ぶ姿勢を示し、授業力の改善に努めていると思いますか。	83%	83%	80%	77%
21	本校の学校行事は、適切な内容で充実していますか。	90%	93%	87%	93%
22	生徒・教員相互の信頼関係を大切にした教育や指導が行われていますか。	91%	91%	89%	85%
23	クラスや学校での様子などを、家庭で保護者に知らせていますか。	88%	84%	70%	77%
24	学校や学習塾への訪問・各種説明会・オープンスクール等、本校の広報活動は計画的かつ効果的に行われていますか。	91%	90%	83%	92%
肯定率・平均値の平均		88%	88%	79%	80%

2023年度中高一貫コース（中学校・高校）総括

1. 生徒・保護者の過去3年間（2021年～2023年）の全質問項目の肯定率（それぞれの質問に対してそう思う、ややそう思うと回答した割合）の平均（％）の推移（数字は左から2021年、2022年、2023年のデータ）

中学生：88・86・88 中学保護者：79・80・80

高校生：82・87・88 高校保護者：80・77・79



このような調査においては、肯定率80%以上は高い評価であると判断する。

*2023年度の肯定率は、2022年に比べて生徒・保護者ともほとんど同じであった。

*中高一貫コースの生徒の肯定率は、これまでは中学の方が高校よりも高く、保護者についてはほぼ変わらない傾向であったが、昨年から生徒の肯定率もほぼ同じ状況が続いている。

2. 中高一貫コース生徒の質問項目1、5、7、8、19、21の過去3年間（2021年～2023年）の肯定率（％）の推移（数字は左から2021年、2022年、2023年のデータ）

(1)「本校に入学して良かった」	中学生：91・94・96	高校生：88・89・94
(5)「授業内容の理解」	中学生：73・81・79	高校生：80・81・87
(7)「能力・個性に応じた適切な指導」	中学生：83・82・85	高校生：78・89・84
(8)「クラブ活動の満足度」	中学生：75・70・76	高校生：84・80・79
(19)「進路実現等に向けた学力向上」	中学生：90・89・90	高校生：82・89・87
(21)「学校行事の充実」	中学生：93・85・93	高校生：83・88・90

*質問項目（5）「授業内容の理解」の肯定率は、高校生は大きく上昇し、中学生はわずかであるが低下した。教員が授業評価アンケートをもとに、ワイドプロジェクターなども活用しながら、授業改善に努めた成果が高校生の肯定率の上昇につながったと思われる。ただ昨年大きく上昇した中学生の肯定率がわずかではあるが低下したことをふまえ、教員はさらなる授業改善に努めていく必要がある。

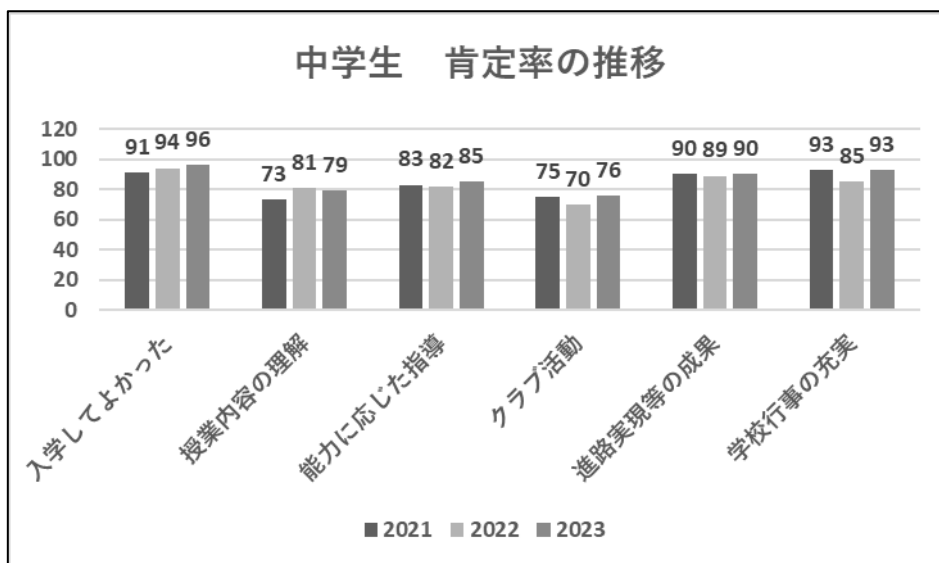
*質問項目（7）「能力・個性に応じた適切な指導」の肯定率は、中学生が上昇しているのに対し、高校生は低下している。中学生については、東大模試の導入やZ会模試に向けての補習を強化するなど、中下位層の個別指導に加えて、上位層向けの補習を強化したことが、この数

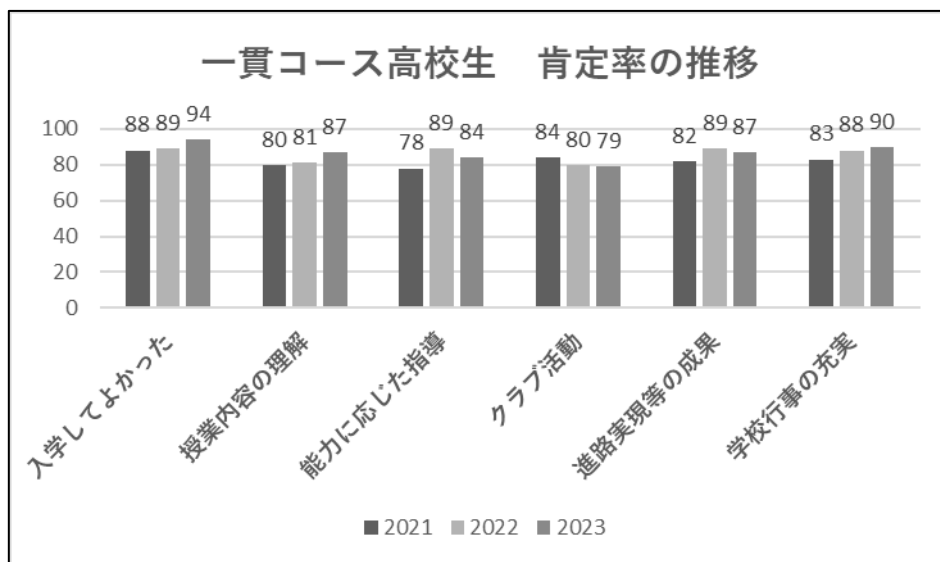
字に現れている。高校生の肯定率低下の要因の一つとしては、放課後学習会がうまく機能しなかったことがあげられる。次年度は委託する業者を見直し、生徒個々のニーズに合った放課後学習会の構築をめざしたい。

- *質問項目（8）「クラブ活動の満足度」の肯定率は、中学生が大幅に上昇した。コロナのためクラブ活動を短縮する必要がなくなり、通常の活動日以外に、長期休業中に活動するクラブも増えてきた。しかし他の項目に比べて肯定率が高いとはいえない現状をふまえ、今後は生徒の学習状況を鑑みながら、活動日の拡充についても検討していきたい。
- *質問項目（19）「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率は、昨年大きく上昇した高校生の肯定率をほぼ維持できている。本年度は校内予備校で著名な外部講師を招聘するなど、平日や長期休暇中の補習・講習の強化に努め、これまで以上の進路結果を収めることができた。今後はより多くの生徒が自分の第一志望を実現できるよう、進路指導部主導のもとで、これまで以上に個々の学力に応じた補習・校内予備校・放課後学習会のあり方を構築していきたい。
- *質問項目（21）「学校行事の充実」の肯定率は、中学生が大きく上昇し、高校生については昨年の肯定率をしっかりと維持できている。昨年から体育祭・文化祭などの行事について、高校生が生徒主体の取り組みを始めたのに続いて、本年度は中学生についても生徒会が中心となって行事を運営し、生徒の意見がこれまで以上に行事に反映されるようになった。今後は生徒会とともに行事、なかでも文化祭の目的を明確にしながら、東洋大姫路の独自性を残しながらも、文化部や日常の学習活動の発表の場としての位置づけをもたせた行事にしていきたい。

そのほか（3）「目標・目的意識をもった学校生活」については、中学生：83・高校生：94

（5）「課題（宿題）等の難易度が適当か」については、中学生：77・高校生：86 とともに顕著な差が生じている。中学生に対して、早期から目的意識の醸成を図るため、オープンキャンパスへの参加を前倒しするなどの取り組みを強化していきたい。また学年内の教科相互の連携を強化し、学習の定着を図ることができる課題の分量・難易度について継続して検討していく必要がある。





3. 肯定率が70%以下だった質問項目（一貫コース保護者 今年度←昨年度）

質問項目（5）「授業内容の理解」	高校保護者 65%←65%
	中学保護者 67%←66%
（7）「生徒の個性・能力に応じた指導」	中学保護者 65%←69%
（8）「クラブ活動の満足度」	高校保護者 68%←64%
	中学保護者 44%←43%
（18）「進路を実現するための体制」	高校保護者 69%←63%
（17）「教職員間の協働体制の確立」	高校保護者 64%←68%

*「授業内容の理解」については、高校生は87%、中学生は79%であるが、保護者の肯定率はともに60%台の半ばである。保護者に生徒たちの成績の伸びが実感してもらえるよう、授業評価アンケートをもとにした授業の改善を図ることに加えて、学外評価委員の提言にもある「塾や予備校の力を借りて、教員の指導力研修や、生徒の学力向上に繋げる施策」なども考えていく必要がある。また「生徒の個性・能力に応じた指導」については、中学生保護者の肯定率が低下しているが、これは放課後学習会がうまく機能しなかったことに起因していると思われる。生徒のところでも記したように、次年度は委託する業者を見直し、生徒個々のニーズに合った放課後学習会の構築をめざしたい。さらに「教職員間の協働体制の確立」については、高校生保護者の肯定率の低下が目立つ。日常的に教職員間で情報共有をおこない、同じ目線で指導できるような組織づくりを、いま一度すすめていきたい。

4. 総括コメント

本年度の「生徒による授業評価アンケート」は、専任教員を対象に1学期末と2学期末に実施した。その結果をふまえて実施した「授業評価アンケートに対する教員の意識と実態についての調査」をみると、ほとんどの教員が、「今回の授業評価アンケートの結果は、自らの授業改善に役立つと思う」と前向きに捉えている。昨年までと同様に「生徒の関心意欲を高めるための授業改善の必要」を課題にあげた教員が最も多かったが、共通テストでより求められるようになった「思考力の育成」を課題にあげた教員の割合も増加した。進学実績のよりいっそうの向上のためには、共通テストの高得点を増やすことが不可欠である。その目的達成にむけて、「授業評価アンケート」をもとにICT機器のさらなる活用法を研究し、すべての生徒の興味関心を喚起しながら、思考力を中心とした学力の三要素をバランスよく伸ばしていく授業の実現をめざしていきたい。

2023年度は、中高一貫コース5期生が大学入試に臨み、国公立大学には大阪大学3名をはじめとし、岡山大

学・九州工業大学などの難関大学や地元の兵庫県立大学4名を含む32名（防衛大学校を含む）が合格した。これは中高一貫コース卒業生48名の3分の2にあたる。また私立大学には、東京理科大学や近畿大学（医・医）のほか、関西の難関私大とされる関関同立に26名、産近甲龍に46名が合格した。昨年の埼玉医科大学に続き、ことし近畿大学・愛知医科大学・金沢医科大学・久留米大学の医学部医学科に合格者を出すことができたのは、生命倫理講座をはじめとした医学部医学科をめざす生徒を対象とした取り組みを充実させてきた成果の現れといえる。また国公立大学の合格者数も、防衛大学校を含めると昨年から12名増加し、過去最高の実績を収めることができたが、当初の第一志望を実現できなかった生徒がいることをふまえると、進路指導体制の改革をさらにすすめていく必要がある。学外評価委員からは、国公立大学の合格者数を中高一貫コースとしてさらに増やすために、「進路指導部主導の持続可能で生徒一人ひとりの目標を実現できる進路指導体制に転換すべきである」という提言をいただいている。次年度は、これまで国公立大学推薦プロジェクトなどを通じて蓄積されてきた総合型・学校推薦型で国公立大学に合格させるためのノウハウを生かしながら、授業改善とともに校内予備校・放課後学習会を含めた補習・講習などの進路指導体制のいっそうの充実を図ることで、一般入試に向けての学力向上をめざし、国公立大学合格者の大幅増加をめざしたい。

コース制導入3年目となった2024年度の中学入試の志願者は309名（昨年301名）と、昨年に比べてわずかながら増加したが、本年度も入学定員90名を確保することはできず、11期生の入学予定者は84名にとどまった。ことしの入試で顕著にみられた傾向は、これまで以上に兵庫県立大学附属中学校との併願者が増加したことで、その要因としては兵庫県立大学の兵庫県在住者に対する授業料無償化の影響をあげることができる。また昨年に引き続き、合格が難しいと判断した学力層が本校の受験を敬遠する傾向も続いている。こうした状況を打破するため、新たな受験層の開拓をねらった入試改革をおこなうとともに、本校を第一志望としてもらえるよう、東洋ブランドをさらに高めることができるような広報活動を展開していきたい。

2024年度は中学3学年すべてがコース制となり、これまで以上に個々に応じた指導をおこなう体制が整うことになる。今年度の「授業評価アンケート」・「学校評価アンケート」等の結果を謙虚に受け止め、日々の授業の充実と改善に努めながら、東洋大学附属姫路中学校・高等学校のさらなる進化と飛躍に向けて取り組んでいきたい。

5. 2024年度に向けての課題

(1) 中高一貫コースの中学・高校の教育方針と教育目標に加えて数値目標を明確にする。

中学：コース制導入以後2年間の教育内容を検証し、中学校の学習内容を2年で終えて高校の教育課程にスムーズに接続できるシラバスを構築する。

高校：国公立大学のさらなる合格者数増加をめざし、進路指導部主導の取り組みを強化する。

(2) 学校関係者評価委員会での提言をふまえ、旅行行事を系統的に再編するとともに、キャリア・フロンティアの成果を生かして、難関国公立大学への総合型・学校推薦型入試合格者の輩出をめざす。

(3) グローバル教育の充実に向けて、さらなるプランを構築するとともに、本年度導入した海外指定校推薦制度活用に向けての施策を展開する。

(4) 中高一貫コース全体としての生徒定員の確保をめざす。